



「見たり、聞いたり、探ったり」No.305

通算 No.456

青木行雄

2025年、大阪・関西万博
「アゼルバイジャンパビリオン」について
(中央アジア、共和国)
万博No.3

アゼルバイジャン共和国、通称アゼルバイジャンは、ユーラシア大陸のコーカサス地方、カスピ海西岸にある共和国国家である。首都バクーは国内で最大の市である。

アゼルバイジャンパビリオンはこの関西万博の注目のひとつに取り上げられているという。

白く輝く「7つのアーチ」が印象的な外観で、見るからに異国の物語を想像出来る。シルクロードの記憶をたどりながら、文化、歴史、食について見学して来た。

真っ白なファサードに、7つのアーチが美しく並ぶ建築美。(※ファサード=建築物の正面デザイン)

パビリオンの説明によると、これは、アゼルバイジャンが誇る12世紀の詩人ニザミ・ギャンジャビの叙事詩「7つの美」にちなんだものという。それぞれのアーチは「持続可能な発展」、「文化遺産」、「伝統芸術」、「スポーツと観光」など同国の多彩な価値観を象徴していると記されている。



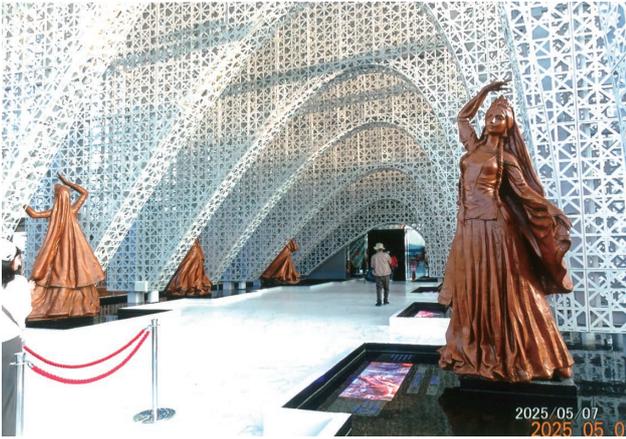
「アゼルバイジャンパビリオン」正面入口。予約なしで入場可能。



右側の下が3階に上がる入口とショップの受付。



10分ぐらいで入場出来る。



ユネスコの無形文化遺産に登録されているアゼルバイジャンの伝統舞踊「ヨルシュ」の踊り子を模した人形たち



映像ホールでは、360°の映像が楽しめる。



ショップの受付と案内所。

アーチの中をよく見るとユネスコの無形文化遺産に登録されているアゼルバイジャンの伝統舞踊「ヨルシュ」の踊り子を模した人形たちが、音楽に合わせてくるくると舞い続けていた。

前にも記したが、アゼルバイジャンはコーカサス山脈の南に位置し、東はカスピ海に面し、地図を見ると周囲の国は、ロシア、ジョージア、アルメニア、イランなどがあつた。

古代よりシルクロードの重要な中継地点として栄えた国である。トルコ系民族が多く、宗教はイスラム教を中心にロシア正教など多様な宗教が共存しているという。

現在の人口は約1000万人で親日家が多く、今の駐日大使も日本の大学を出ていて日本酒が大好きな素敵な紳士である。

アゼルバイジャンパビリオン1階展示エリアには、100年以上の歴史を持つ絨毯、楽器、シルクのスカーフなどが展示されている。映像では国土のすばらしい山々や風景に感動した。また、アゼルバイジャンの日常や文化の紹介に親近感が湧いた。

展示の後半では、360度ビジョンによるイメージ映像が上映され、火の国とも称されるアゼルバイジャンの自然と歴史を体感できる。首都バクーは世界で初めて石油が発掘された地として知られ、近代化の先端を走ってきた歴史が描かれている。

3階のカフェは見逃せない穴場スポットと言える。展示に並ばずに行ける3階は誰でも上がれてこの暑い夏には冷房が効いて最高の穴場と言える。



3階の軽食場所。自由に入場が出来て、涼むことが出来る。穴場といえる



3階の軽食受付。ワインもここで買える

アゼルバイジャンは世界最古のワイン産地で、ワイン党にはたまらない。6種のワインが飲める。かつてドイツ人が移民としてワイン造りを伝授、ブドウ栽培に適した四季ある土地で発展してきた背景があるという。

1階にあるショップでは、シルクのスカーフやエコバッグをはじめ、ワイン、オリーブ、オリーブオイル、Tシャツ、マグカップなどのグッズを販売していた。

この3階のカフェに1時間程、暑かったので休ませてもらい、軽食とワインを賞味した。その後、2～3のパビリオンを廻り、この近くに、スシローがあり混雑の中、特別に案内してもらい、またまた涼しい所で日本食を堪能した。

今回の関西万博も時間を重ねる事に人気も上り毎日ナショナルデーもどこかで開催され、内容も充実して来た。中断していたウォーターショーも再開し、花火等も上がり、暑さと熱気で盛り上がり、時間も少なくなってきた。頑張っで最後の万博に行こう。



皆さん自由に楽しんでた。